Miyazaki International College Course Syllabus

Course Title (Credits)	TCE315 : 生徒・進路指導論 Theories and Methods of Student Guidance (1 credits)
Course Designation for TC	教員の免許状取得のための必修科目 【科目】 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 【各科目に含める必要事項】 生徒指導の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法
Content Teacher	
Instructor	田上 幸雅 (単独) 実務経験のある教員
E-mail address	ytagami@miu.ac.jp
Office/Ext	
Office hours	授業の前後の時間 (メール等でアポイントをとること。)
Language Teacher	
Instructor	
E-mail address	
Office/Ext	
Office hours	

Course Description:
<p>【全体目標】</p> <p>生徒指導は、一人一人の児童及び生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じ行われる、学習指導と並ぶ重要な教育活動である。他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付ける。</p> <p>進路指導は、児童及び生徒が自ら、将来の進路を選択・計画し、その後の生活によりよく適応し、能力を伸長するように、教員が組織的・継続的に指導・援助する過程であり、長期的展望に立った人間形成を目指す教育活動である。それを包含するキャリア教育は、学校で学ぶことと社会との接続を意識し、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むことを目的としている。</p> <p>進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身に付ける。</p> <p>生徒指導の定義、基本的な考え方、基本的な指導方法、キャリア教育の基本について学ぶ。また、文部科学省の報告書から生徒指導上の諸問題である暴力行為、いじめ、不登校を取り上げ、その現状および対応方法、そして予防的取り組みについて学ぶ。</p>

生徒指導は、学校生活のあらゆる場や機会を通して児童生徒の健全な成長を促し、自己指導能力の育成を目指す営みである。進路指導は、児童生徒の社会的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てる営みである。価値観の多様化、急激な社会の変化、高度な技術革新の中で、生徒指導上の各種の問題に対する解決の方策や、小学校からの体系的なキャリア発達を視野に入れたキャリア教育のあり方を考察する。授業形態は講義とする。

アクティブラーニングとして、振り返り、レポート等を取り入れる。

Course Objectives:

【一般目標】

(1) 生徒指導の意義と原理

生徒指導の意義や原理を理解する。

(2) 児童及び生徒全体への指導

すべての児童及び生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方を理解する。

(3) 個別の課題を抱える個々の児童及び生徒への指導

児童及び生徒の抱える主な生徒指導上の課題の形態と、養護教諭等の教職員、外部の専門家、関係機関等との校内外の連携も含めた対応の在り方を理解する。

(4) 進路指導・キャリア教育の意義及び理論

進路指導・キャリア教育の意義や原理を理解する。

(5) ガイダンスとしての指導

全ての児童及び生徒を対象とした進路指導・キャリア教育の考え方と指導の在り方を理解する。

(6) カウンセリングとしての指導

児童及び生徒が抱える個別の進路指導・キャリア教育上の課題に向き合う指導の考え方と在り方を理解する。

【到達目標】

(1) 生徒指導の意義と原理

- 1) 本講では、生徒指導の基礎となる個々の児童生徒の理解と指導に関する基礎的な知識の習得を目指す。
- 2) 生徒指導に関する理論とその活用方法を理解し、学校現場で実践できることを目標とする。
- 3) 生徒指導上、取り上げられる問題（例えば、いじめ、不登校、暴力行為、キャリア教育）に対する最新データをふまえた現状を理解し、その対応法に関する知識を獲得することが目標とする。

(2) 児童及び生徒全体への指導

- 1) 学級担任、教科担任その他の校務分掌上の立場や役割並びに学校の指導方針及び年間指導計画に基づいた組織的な取組の重要性を理解している。
- 2) 基礎的な生活習慣の確立や規範意識の醸成等の日々の生徒指導の在り方を理解している。
- 3) 児童及び生徒の自己の存在感が育まれるような場や機会の設定の在り方を例示することができる。

(3) 個別の課題を抱える個々の児童及び生徒への指導

- 1) 校則・懲戒・体罰等の生徒指導に関する主な法令の内容を理解している。
※高等学校教諭においては停学及び退学を含む。
- 2) 暴力行為・いじめ・不登校等の生徒指導上の課題の定義及び対応の視点を理解している。
- 3) インターネットや性に関する課題、児童虐待への対応等の今日的な生徒指導上の課題や、専門家や関係機関との連携の在り方を例示することができる。

(4) 進路指導・キャリア教育の意義及び理論

- 1) 教育課程における進路指導・キャリア教育の位置付けを理解している。
- 2) 学校の教育活動全体を通じたキャリア教育の視点と指導の在り方を例示することができる。
- 3) 進路指導・キャリア教育における組織的な指導体制及び家庭や関係機関との連携の在り方を理解している。

(5) ガイダンスとしての指導

- 1) 職業に関する体験活動を核とし、キャリア教育の視点を持ったカリキュラム・マネジメントの意義を理解している。
- 2) 主に全体指導を行うガイダンスの機能を生かした進路指導・キャリア教育の意義や留意点を理解している。

(6) カウンセリングとしての指導

- 1) 生涯を通じたキャリア形成の視点に立った自己評価の意義を理解し、ポートフォリオの活用の在り方を例示することができる。
- 2) キャリア・カウンセリングの基礎的な考え方と実践方法を説明することができる。

Course Schedule

Day	Topic	Content/Activities
1	生徒指導の意義・原理と教育課程における位置付け	<p>(1) 学校教育における生徒指導とは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の学校教育の特徴と制度的背景の理解 ・生徒指導 (guidance) の定義・意義・原理の理解 <p>(2) 現代の子どもとこれからの生徒指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達課題および心理的側面に関する基礎的理解 ・現代の子どもの対人関係や行動傾向の変化とその背景の把握 ・教育課程における生徒指導の位置付けと、個別・集団指導の基本的な方法・原理の理解 ・今後の生徒指導に求められる視点と実践的課題の考察
2	教育活動における生徒指導とその体制づくり	<p>(1) 教育活動における生徒指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導と生徒指導の関連性の理解 (教育活動全体を通じた生徒指導の重要性) ・生徒指導に必要な基礎的スキル (傾聴・共感・アセスメント等) の習得 <p>(2) 生徒指導体制と組織的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級担任・教科担任・生徒指導担当など、校務分掌上の役割ごとの生徒指導の実際 ・学校全体での生徒指導の組織的な取組の在り方 (学校の指導方針・年間指導計画との関係) ・チームとしての学校づくりと、生徒指導における協働体制の構築
3	生徒指導に関する法的理解と多様な課題への対応	<p>(1) 生徒指導に関する主な法令</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導に関連する主要な法令・通知・ガイドラインの理解

		<p>(校則の意義、懲戒・体罰の定義と法的制限、高等学校における停学・退学の実際等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師が守るべき法的責任と倫理的配慮についての基礎的理解 <p>(2) 不登校の理解と対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不登校の現状と背景要因の把握(文部科学省の統計・研究等をもとに) ・不登校児童生徒への支援の在り方(学校内外の連携、多様な学びの場の確保、個別対応の原則)
4	いじめ・非行の理解と生徒指導における対応	<p>(1) いじめの理解と対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめの定義と全般的動向の理解(発生要因、加害・被害・観衆の構造、SNSとの関連など) ・学校におけるいじめへの対応の原則と具体的実践(早期発見・初期対応・記録・関係機関連携等) <p>(2) 非行の理解と対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非行の種類や発生要因、背景となる家庭・地域・発達課題の理解 ・非行への教育的対応(指導・支援・関係機関との連携)の具体的な在り方 ・問題行動を「排除」ではなく「理解・支援」する生徒指導の視点
5	多様な教育課題への包括的対応と連携の在り方	<p>(1) 学級崩壊と授業崩壊の理解と対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級崩壊・授業崩壊の発生メカニズムの理解と、学校種別に見られる特徴の把握 ・学級・授業の崩壊を予防するための組織的・実践的対応の視点(教師の指導姿勢、関係構築、環境づくり) <p>(2) 家庭・地域・関係機関との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭や地域社会、関係機関との連携の必要性和具体的な協働のあり方(教育相談、福祉、医療とのつながりなど) <p>(3) 特別支援教育と生徒指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育における生徒指導の基本的視点と対応(障害特性への理解、配慮事項、個別の支援計画等) ・発達段階に応じた支援と、通常の学級におけるインクルーシブな生徒指導の在り方
6	進路指導・キャリア教育とは	<p>(1) 進路指導とキャリア教育</p> <p>(2) キャリア教育の理論と内容</p> <p>(3) キャリア教育の実際</p>

7	進路指導・キャリア教育の展開	(1) 生涯のキャリア形成の視点に立った自己評価の意義 (2) ポートフォリオ活用の在り方 (3) キャリア・カウンセリングの考え方と実践方法
8	「中学校や高等学校におけるキャリア教育の推進」に関する学習ために	(1) 中学校におけるキャリア発達 (2) 中学校・高等学校におけるキャリア教育の全体像 (3) 中・高連携を生かし、学びのつながりを意識した進路指導・キャリア教育
	期末試験	
Required Materials:		
<p>テキスト：『生徒指導・進路指導の理論と実際』河村茂雄（編著） 三訂版 図書文化</p> <p>参考書：『生徒指導提要（最新版）』（文部科学省刊）『中学校キャリア教育の手引き』（文部科学省刊）『高等学校キャリア教育の手引き』（文部科学省刊）『中学校学習指導要領（最新版）解説 総則編』</p>		
Course Policies (Attendance, etc.)		
<p>教職を目指す学生として教員の崇高な使命をよく理解するよう努めることが肝要である。授業は欠席や遅刻をすることなく積極的に参加するように心がけること。特に、時間に凡帳面であることと、日常生活の態度（あいさつ、身なり、言葉遣い等）には気をつけること。教員採用試験に向けて教職教養の勉強をしっかりと力をつけること。</p>		
Class Preparation and Review		
<p>事前・事後学習として週4時間以上行うこと。</p> <p>講義終了後、取り上げたテーマや問題について自分が興味を持てたこと、重要だと感じたこと等について、自分なりに情報収集して理解を促進すること。</p>		
Grades and Grading Standards		
<p>期末試験 70%、発表 30%</p> <p>期末試験、各講義において実施する課題によって評価する。所定の時間数出席しなければ受験資格は得られない。出席不足の場合は改めて受講しなければならない。</p>		
Methods of Feedback:		
リアクションペーパーへの質問・感想については、次の回の授業でフィードバックを行う。		
Diploma Policy Objectives:		
<p>Work completed in this course helps students achieve the following Diploma Policy objective(s):</p> <p>3. The ability to identify and solve problems</p> <p>4. Advanced communicative proficiency in both Japanese and English</p>		
Notes:		